

第1回 食育推進検討部会 会議録	
日 時	令和4年7月22日（金）午後7時～9時
開 催 場 所	市庁舎18階みなと4・5会議室
出 席 者	食育推進検討部会委員 13人（別添資料1）
欠 席 者	植木委員、飯笹委員
開 催 形 態	公開（傍聴者0人）
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 報告 令和4年度 第1回 食環境整備検討会での検討状況について</p> <p>5 議事 (1) 第2期 横浜市食育推進計画の振り返りについて (2) 次期横浜市食育推進計画骨子（案）について ア 次期横浜市食育推進計画と第3期健康横浜21との関係性 イ 横浜市民の食生活を取り巻く現状 ウ 基本理念、基本目標及び推進テーマ（案）について エ 推進テーマごとの目標と指標（案）について オ 推進テーマごとの取組内容（案）について</p> <p>6 その他 今後のスケジュールについて</p>
決 定 事 項	次期横浜市食育推進計画の指標及び目標値についての検討
1 開 会	
2 あいさつ	
3 委員紹介	委員紹介（資料1）
4 報 告	<p>令和4年度 第1回 食環境整備検討会での検討状況について （事務局） 説明（資料3、5-3） （金子部会長） ただいまの説明についてご質問はありますか。 （質問なし）</p>
5 議 事	<p>(1) 第2期 横浜市食育推進計画の振り返りについて （事務局） 説明（資料4-1、4-2、6） （金子部会長） ただいまの説明についてご質問はありますか。 （望月（悟）委員） 朝食欠食の割合が増えている。学生、独身が多いのではないかという印象。企業</p>

のでできることとして、例えば、大学で朝学食を出しているところもあるし、モーニングセミナーなど、朝食を食べながらできる取組が必要では。それぞれ自分自身の生活パターンがある中で、特に無関心層の朝食欠食率というのはなかなか下がらないと思う。コロナによる新しい生活様式によって、家庭での食事が増えてきた背景があるが、無関心層の場合、宅配の利用や、コンビニで買って家で食べる人が増えているだけで、朝食欠食が多い年齢層（20～30歳代）についてはあまり食事内容に変化がないように推測するが、どうか。

（金子部会長）

事務局からはいかがですか。

（事務局）

家庭での生活様式の変化、大学の様々な取組も聞いている。これまでの取組の内容として、認識を持って選択するというものが多かった。そういった啓発や教育も重要だが、食環境整備検討会では、無関心層でも、自然に選んだらバランスが良かったというような状況も取組として検討していく必要があるのではないかと考えている。

（金子部会長）

朝食欠食への対応についても、無関心層へのアプローチが必要になっていくと思われる。これからいろいろなアイデアをもって取組を検討していけるとよい。

（菅委員）

無関心層が、無意識のうちに（意識せず自然と）朝食を食べていたというのはよいアプローチだと思う。以前講師を務めていた「丸の内朝大学」という「朝活」（例ヨガ、セミナー）をやっている市民大学があるが、そこに朝食をプラスするような取組をやっていくのもよいと思う。「朝活」に興味のある若者は多いので、朝食には興味がなかったが、「自分を高める」という取組に興味をもって参加したら、朝食もついていた、というのも有効なのではないか。

（望月（選）委員）

20～30歳代の朝食欠食について。朝食の定義があると思うが、どのような質問の仕方なのか。

（事務局）

厳密な定義はなく、朝食として摂取していれば該当する。内容は人によってさまざまだと思う。

（望月（選）委員）

栄養バランスがよいほうが望ましいとは思いますが、20～30歳代は忙しい世代なので、朝食として、おにぎり1個でもありではないか。それでもよいと聞けば、もう少し欠食率は下がるのではないか。まずは食べるのが大事だと思うので、再度若い世代にそのあたりを訴え、その上で興味がある方はさらにレベルアップしていくだろうし、そこから関心を持ってもらうという風に進めていくとよいのでは。

(福留委員)

そもそもどうして朝食を欠食するのか。

(事務局)

若い方の朝食欠食の理由は、主なものに「食べるよりは寝ていたい」「時間がない」「用意をしてくれたら食べる」などがある。大学で「朝学食」や健康経営認証で企業での「置き食」など、食べる環境づくりの取組をしている。

(福留委員)

本当は食事をしたいと思っている人と、そもそも興味がない人と、対策を変えていく必要があるのでは。

(君塚委員)

朝食欠食している人に対しての調査では、理由についてまでは聞いているということではよいか。朝食、昼食、夕食という聞き方自体が、浸透していないのではないのか。例えば起きてすぐの食事が昼頃になっている場合、それがその人にとっての「朝食」だが、「昼食」と捉えられるなど、時間帯の問題で、実際は食べていないわけではないということはないか。

(事務局)

確かに、そういった設問にはなっていないので、今後の調査にあたって参考にさせていただきたいと思う。

(君塚委員)

身近な人でも夕食を2回ぐらい食べている人もいる。昼食は抜いて、夕食を2回食べる場合、その人にとっての「夕食」はどれになるのか。その人の「朝食」はどれになるのか。朝食欠食について目標値とかけ離れてしまっているが、本当は食べている場合もあるのではないか。そもそも朝食、昼食、という区分自体に無関心で、少量ずつ不定期に食べている人がいて、それが問題なのか？そうになると、逆に血糖値が一度に上がらなくていいという見方もあるか。ドカ食いするより、ちょこちょこ食べるほうがよいのかもしれない。「朝食」の定義が大事だと思う。

(事務局)

生活時間の違いは確かにある。調査では「朝食」の定義は設定していないので、起きて一番初めに食べる食事のことと考えるが、質問を受ける相手に正しく伝わっているか、考えていく必要がある。

(長島委員)

自分の生活時間を認識して、3回の食事ができる人、できない人がいる。意識の低い人への対策が必要。一人暮らしの人で朝食はごみを出したくないから食べないという20歳代女性の方もいた。アンケートをとるなどして現状を把握していくことも必要だと思う。

(金子部会長)

たくさんの御意見をいただきました。事務局には、これからの次期計画策定の参考にしていただきたいと思います。

(2) 次期横浜市食育推進計画骨子（案）について

（事務局）

（2）ア、イ、ウについて説明（資料5-1、5-2、5-3、6）

（金子部会長）

資料5-1、資料6で、基本理念、基本目標について、事務局の方でたたき台を示していただいた。委員の皆様からご意見、ご質問はありますか。

（質問なし）

（金子部会長）

それでは、先に進めます。

次に、推進テーマごとの目標と指標について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

（2）エ、オについて説明（資料6、7）

（金子部会長）

次の計画における基本理念、基本目標、推進テーマ、指標について、皆様の御意見ををお願いします。

（岩本委員）

目標6「食育に関心を持っている市民を増やす」について、小学生より中学生の現状値が低いのが疑問。教育は積み重ねなので、小学生より中学生の目標値を高くしてほしい。

先ほどの20～30歳代の朝食欠食について、割合の高さに驚いた。コロナになって働くスタイルがリモートに変化したこともあり、朝食をとるタイミングが中途半端になっているのではないかと思った。

資料5-3の組織図について、食環境整備のオレンジの吹き出しの位置が左上にあることで、食育推進検討部会の説明のように見えてしまう。吹き出しの内容は、主語が「食環境整備検討会」なので、位置を変えたほうがよいと思った。

（事務局）

吹き出しの位置、今後の説明の際に注意したい。

御意見のとおり、コロナの影響も一因として考えられるが、詳細については分析ができていない。いただいた御意見を踏まえて今後の取組検討の参考にしたい。

（君塚委員）

目標6「食育に関心をもっている市民を増やす」について、指標に書いてあることをやれば、目標を達成できるということで考えると、小、中学校は比較的関心が高いが、それをさらに高くするよりは、無関心層が関心を持てるような仕組み、仕掛けはなくてもよいのか。

目標9「学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす」について、市の指標は「栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均回数」が目標値になっているが、指導回数を増やすことで地場産物の摂取が増えると思えない。どんな指導をするのか条件を決めておかないと、指導回数だけでは目標と合っていない

のではないか。

目標 10「農業体験を経験した市民を増やす」について、保育所で栽培体験、収穫体験の実績は高いし、取り組みやすい気がするが、農業体験を増やす目標で、保育所の体験の割合を増やす指標が合っているか疑問。家族も含めてやっているのであれば、共食、食事の楽しさにつながると思う。

目標 13「食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす」について、「食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合」が指標となっており、その割合は 40.5%と低くなっているが、どのような質問に対しての回答なのか気になった。「増やす」という目標に対しての指標が「割合」という言い方がふさわしいのか疑問。

目標 14「日頃から災害に備え、食料品等の備蓄に努める市民を増やす」について、「健康を維持するため、災害に備えて主食・副食を準備している市民の割合」あるいは「震災に備えて3日分以上の食料、飲料水を準備している市民の割合」が指標となっているが、「健康を維持するため」も条件につながるのか。命にかかわる問題なので、「健康」以前の「備蓄」という話にしないと、災害時の健康のことまで考えていられない場面で、「健康」と出た時点で、興味がなくなってしまうのではないか。受け手側（対応しなければならない人）の気持ちを汲んで言葉を選び、関心ない人も含めた指標となっているとよいと思う。

（金子部会長）

進め方ですが、たくさんの御意見をいただいているが、ひとつひとつお答えするというよりも、御意見をいただいて、そのうえで事務局が目標や指標について作り直していくという方向で考えてよいか。

（異議なし）

（金子委員）

目標 1「朝食を欠食する市民を減らす」の指標「朝食を食べている小・中学生の割合」という部分が新規となっているが、国の目標を踏まえてというのは了解しつつも、最初の方で議論があったとおり、朝食の定義や質問の取り方によって数字のブレが大きいのではないか。さらに、20～30歳代とは違って、小・中学生は自ら調達というのが難しい。自らの意思で用意する 20～30歳代の欠食と区別し、具体的な実現に向けた方策、定義づけを含めてやっていく必要があるのではないか。

目標 9「学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす」についての指標「栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均回数」が新規となっているが、横浜市の学校給食でも JA 横浜さんの御協力をいただいて、市の環境創造局と一緒に横浜産農産物の提供をしているが、小学校等の児童数と教職員の数から 1 回あたり 20 万食近い食数となり、使用量が多すぎて、使用できる農産物は限られているという、都市としての現状がある。現物を使いながらの指導は物理的な問題も含めて、相当難しいというのが率直に感じるころ。

さらに、学校給食と一括りとなっているが、横浜市では小学校と中学校では現状

では形態が異なっている。学校給食という国の括りと一緒となると、横浜市の場合には状況が違うという部分もあることを意識する必要がある。

また、栄養教諭等について、横浜市は全校配置でないという現状がある。どういふものを使って、誰がやるかということも含めて捉えていかないと、目標として位置づけたとしても、その先につながっていかないとということを考えると、教育委員会との連携が必要だと考える。

(大久保委員)

食材の下ごしらえの仕方を知っている子、魚をきれいに食べられる子も減っており、そういった文化が失われてきつつある。食べやすいものだけ食べるような、噛まない、不適切な栄養バランスなど問題のある食べ方になっているのでは。

子どもたちは親と一緒に食材を買うことはあるとしても、教育現場として食材に接することがなかなかない。学校現場を離れたところで、市場を活性化し、うまく活用できるとよいのではないか。

(福留委員)

南部市場はにぎわい広場（一般の方の入場可）にて取組を行っている。中央卸売市場は、プロ向けの仕様となっており、一般の方向けの取組というのはできない。

食材に関しては、訴えていきたいところ。国の枠組みに沿っているのだとは思いますが、「自分で食事を作る」ということにもっと関心を持ってもらいたい。買ったものを食べることに慣れていて、どういった食材をどう調理して、という実感が無い。調理経験があれば、中食、外食に関しても考えて食事をするようになるのではないかと感じている。今回の目標に盛り込んでいただけるかはわからないが、そのようなことも考えていただけるとよいと思う。

(大久保委員)

子どもたちに、目に見えるところで教育できるとよい。ぜひ検討をお願いしたい。

(岩本委員)

今までは規格外で廃棄されていた食材も、販売されるようになってきた。地産地消も含めて、今まで廃棄されていた食材も活用していくことが大切だと考えている。小学校でも、未利用魚を学校給食に使用する取組もある。消費者側もそういったことをあたたかく迎え入れるような方向性を市民とともに作っていくべきだと思う。

小学校、中学校の話は出ているが、高校生の食育はどうなっているか、ということも気になっている。

基本目標2について、頭の中に入って来づらい。例えば「食の多様性や横浜らしい食文化を継承し持続可能な食に関する環境を整える」としてはどうか。

基本目標1も象徴的な感じがしてうまく伝わらないように思う。例えば「おいしく楽しく食べる食環境にするために」など、「おいしく楽しい」を分かりやすく説明したほうが、一般の方にも分かりやすいと思う。

(金子部会長)

基本目標の文言について、貴重な御意見をいただきました。基本目標、推進テーマの表現も含めて、御意見がありましたらお願いします。

先ほど、金子(勝)委員から地場産物、農業体験について御発言がありましたが、JA 横浜さんのほうではいかがでしょうか。

(西田委員)

地産地消の推進について、学校給食ということでは、11月の地産地消月間に小学校352校に向けての食材一斉供給というのを、教育委員会、よこはま学校食育財団、横浜市、JA 横浜の4者共同で行なっている。昨年度は大根4万トン用意した。横浜市の場合、食材の調達に苦勞する。月12回以上となっているが、学校給食での地場野菜の利用というのは、学校数を見ても、現状11月の1回が限界というのが本音。本来は、毎月コンスタントに地元の食材を旬に供給できるのが理想だが、学校数の規模的に難しい現状がある。農業体験では「保育所」という文言があったが、「親子での体験」というのを入れてもらってもよいのかと思う。親子で体験することで、家で調理をしたり、一緒に食事をしたりということつながっていくと思う。JAとしては「食育」に「農業」をプラスした「食農教育」として進めていきたいと思っている。また収穫体験だけでなく、種や苗植えから栽培、収穫の流れを親子で体験することが大切だと思っている。

目標11の「産地や生産地を意識して農林水産物・食品を選ぶ市民を増やす」についての指標「地場産物の購入について、関心があり、継続してできている市民の割合」の国現状値が15.6%、目標値20%というのがとても低く、驚いている。JAとしては、直売所はもっと浸透しているという思いがあったが、もう少し上げていきたいと思う。

(事務局)

目標9「学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす」という項目について、国は指標を3つ持っており、「学校給食における地場産物の使用」についての指標は都道府県のみとなっている。市町村は「栄養教諭等による・・・」という指標となっている。君塚委員より御指摘のあったとおり、目標と指標が合わないというのは事実。指標の書き方については、御意見を踏まえて考えていきたい。

(金子部会長)

具体的な事情を聴いて、検討していただければと思います。

(井上委員)

目標8について「減塩に取り組む店舗」「野菜摂取を推進する店舗」については、食品衛生協会が推進に御協力していけると思う。

目標14「日頃から災害に備え、食料品等の備蓄に努める市民を増やす」、参考値として「震災に備えて3日分以上の食料、飲料水を準備している市民の割合」について、非常食として長いスパンで1年に1回くらい取替えることが多いが、短期スパンでのローリングストックで3日分以上の食材があれば、それが3日分の備蓄に

なるので、そのような文言を入れていただければ。

学校給食に関しても、冷凍食品などもストックしておくことで、地域防災拠点になっていることも多いので、そこに食料があるというだけでも、地域に対する安心感があり、高齢者なども助かるのではないかと思います。

(長島委員)

目標6の指標13「食育に関心を持っている市民を増やす」の現状値が61.6%という数字になっているが、「食育」というと「ちゃんとやらなくてはいけない」と思う人が多い。一般市民の方は「食育」はハードルが高いと思っている人が多いが、実は関心を持っているという人もいると思う。

指標11の地産地消に数値について、横浜市が広い中で、近くに農協や地場産物を置いているところばかりでない現状がある。多くの方に興味を持ってもらうためには、地場産物をどのようにしたら購入できるのかについての案内、アナウンスを加味して考えていく必要があると思う。

岩本委員からの御発言にもあったが、小・中学校で食育に取り組んでいても、高校生になると手放しになってしまう現状がある。そういう中で、高校生がどれくらい興味、実践しているのかを追跡調査していくことが必要。ここが抜けることで、20～30歳代の欠食につながっているのでは。「食べることは大事だと思っているが、ごみを出したくない」というようなことにつながらないよう、自分自身の人生なのだから、健康に生活していくために食が大事であることをアピールすることが大切だと思う。場当たりのでなく「生涯においての」ということを伝えていくことが大事だと思う。

(菅委員)

地場産物を買える場所が周囲にないので、増えるとよいと思う。

指標12「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えていく市民を増やす」について、日本の食文化と横浜の食文化の違い（多国籍を受け入れるような文化）がある。家庭で受け継がれてきた食文化にフォーカスするより違う視点がよいのでは。横浜の食にまつわる地域文化とはどのようなことか。書き方の工夫が必要なのではないかと思う。日本の食文化イコール横浜の食文化とするのは違和感がある。

(金子部会長)

横浜の食文化は次回以降、どのような取組をしていけるかを議論する上で、非常に重要な視点だと思う。とりあえず言葉の表現としては「横浜らしい食文化」とするとよいのではないかと思う。事務局で検討をお願いします。

(望月（悟）委員)

食育推進検討部会に委員として歯科が入っている目的として、食育がもたらす歯科領域への影響を伝えるということもあるかと思っている。

乳幼児期は口腔機能の発育・発達に大切な時期だが、コロナ禍により、積み木などのおもちゃをなめるという場面が少なくなっており、食事の時間が唯一口腔機能



	<p>の練習になっている。それが「時短」の傾向にあるのが、口の発達としては非常に問題。</p> <p>(米山委員)</p> <p>今回初めて参加させていただいた。ヘルスメイトが活動する中で、これだけいろいろな立場の方々の意見が基になっているのだと感じた。まだ勉強不足なので、資料を読み返して、勉強し、活動に活かしていきたいと思う。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>本日は、次期食育推進計画の基本理念、基本目標、推進テーマ、指標について、皆様それぞれのお立場から御意見をいただきました。ありがとうございました。本日の議事はすべて終了です。進行を事務局へお戻しします。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>今後のスケジュールについて</p> <p>(事務局)</p> <p>説明(資料8)</p>
<p>資 料</p>	<p>資料 1 健康横浜21推進会議 食育推進検討部会 委員名簿</p> <p>資料 2 食育推進検討部会設置要綱</p> <p>資料 3 食環境整備検討会での検討状況について</p> <p>資料 4-1 第2期 横浜市食育推進計画における数値目標の評価(案)</p> <p>資料 4-2 第2期 横浜市食育推進計画における基本目標の振り返り(案)</p> <p>資料 5-1 第2期計画と次期計画との比較(基本目標及び推進テーマ)</p> <p>資料 5-2 次期横浜市食育推進計画と第3期健康横浜21との関係性</p> <p>資料 5-3 健康横浜21推進会議及び各検討部会関係図</p> <p>資料 6 次期横浜市食育推進計画 骨子(案)</p> <p>資料 7 次期食育推進計画における推進テーマごとの目標と指標(案)</p> <p>資料 8 第3期健康横浜21 策定スケジュール(案)</p>